

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、事務所に貼ってあり皆が意識して実践出来るよう促している	理念は事務所に提示していますが職員が地域密着型サービスの理念に沿って実践するには理念が抽象的でサービスの在り方を捉えるのは難しいように思われ、十分な理解が得られていません。	理念に基づく地域密着型サービスの意義をふまえ、実践につながるような「具体的なサービスのあり方」を策定し、それを管理者と職員が共有してサービスに当たることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で町会長や包括の方から情報をもらい参加できるものへ参加できることは、参加している	登校時に子どもの誘導を行ったり、自治会に入会して「地域の一員として地域の人々と共に生きていきたい」との思いで地域の行事には積極的に参加しています。当事業所が開催する納涼祭や餅つきに地域の人も参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	理解は、不十分である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い状況報告をしたり、情報をいただいたりしている	利用者、家族代表、4町会長、他のグループホーム職員、包括支援センター職員など出席して開催し、事業所の活動や事故報告を行っています。出席者から地域の情報や事故の対応などの助言を頂きサービスに役立てています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことは、市の担当者に確認したり相談している	市の担当者とは頻りに連絡を取っています。生活保護者の相談や地域イベントに参加する為の手続きなど市役所に行って相談するようにして協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、安全確保の為やむを得ず施錠しているその都度対応し解錠している 委員会を行い職員に資料を配布や回覧している	フロアの代表職員と管理者が月一度委員会を開き身体拘束の勉強会を行い、職員全員は拘束をしない支援を続けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会で話し合い全体会議などで職員へ呼びかけて防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修に取り入れ学ぶ機会を作っていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	左記のとおりに出ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を置き、自由に意見をもらえるようにしている	玄関に意見要望箱を置き、利用者家族が来訪したときに意見要望を聞くようにしています。月一回電話での報告をする機会にも意見要望を聞き、利用者家族の「体を動かしてほしい」との意見を検討し運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、各階や合同で会議を行い意見交換をしている	意見要望が言いやすいように施設長が日頃職員への声かけを心掛けているので職員がステップアップのための研修を望めば職員の支援を行い希望休なども取りやすい環境を整え職員の意見要望を運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	左記のとおり心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修や外部研修に行く機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市のグループホーム協議会に入っており交流を深めている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員といち早く信頼関係がつかれるようどのようにしたいのか話を聞き情報を共有するようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	左記のとおり行っている ご家族様の不安に耳を傾けどのようなサービスが提供できるのか説明し納得していただいている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の必要なサービスを見極めご家族様と相談しながら提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る事や入居前にしていた事を継続できるよう支援し助けあって生活をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればその都度相談をして介護の方向性を共有できるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や外部とのつながりを継続できるよう努めている	家族とのつながりを継続できるように、家族との外出、外泊の、支援を積極的に行っています。併設している通所サービスの利用者に馴染みの人がいれば利用者と会う機会を設けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様を探したり職員が間に入り会話がスムーズにできるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了した方がいない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の意向の把握に努めてゆっくりではあるがご本人様の意向に沿うよう支援している	職員は日頃利用者に関わる中で何気ない会話などで利用者の趣味や暮らしぶりなどを把握しています。意思疎通が困難な人には家族から情報を得たり、言葉、表情、行動などで把握しています。職員間でも情報交換しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様との会話を通して以前どのように暮らしていたのかを聞くよう努めている わからないことは、ご家族様に聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に気づけるよう気を配り記録をし職員全員が把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々変わり続ける入居者様の状況に色々なアイデアがでるがなかなか統一することが難しく会議や申し送りノートを活用し統一するようにしている	入居者の日々変わる様子をきめ細かく観察して、利用者の希望に沿った介護計画が作成できるように、家族、本人、職員で話し合いチームの意見を統一し介護計画に反映できるように努力しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を記入し職員全員が目を通すことで情報を共有するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況によりサービスを変えるがケア統一が難しく月1回の会議などの機会を使い統一するようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	左記のとおり行っている 近隣の商店に買い物へ行ったり、訪問美容を利用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様それぞれの医療機関で対応している 場合によっては職員が付き添い、相談や意見をいただいている	入居前からのかかりつけ医には家族が付き添い受診しています。月2回看護師が来訪した際、受診が必要と判断した場合は家族に連絡して対応をしています。受診する際は看護記録を持参してもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回、訪問看護に入ってもらい入居者様の状況を報告し指示を仰いだり24時間に対応していただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した方がまだいない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と個々に説明している これから支援に取り組んでいくように努めていく	重度化の対応は契約時に利用者や家族に説明を行い同意書を得ています。終末期の在り方については今後事業所として利用者や家族の意向を踏まえ、看取りなどの支援も考えています。	重度化や終末期に向けた事業所として支援出来る事を職員に周知徹底し、家族に説明し方針を共有して医療関係者と連携を図り、利用者が安心して最後を迎えられる支援が行われることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応のマニュアルがあり対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	内部研修にて避難訓練を行い地域の消防署との関係を作っていく	関連施設が行った防災訓練に地域の人と共に参加しています。また事業所独自で夜間車椅子で小学校に避難する事を想定した訓練を行っています。災害の時の緊急連絡網はありますが職員の役割分担がありません。	災害時に職員一人ひとりが自分の役割を理解して利用者の避難に当たる為には全体の動きが解る組織表が必要と思われます。また、地域と協力体制の構築も望まれます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	初期研修にて職員には伝えている声かけに注意し他入居者様に悪い印象をもたれないように配慮している	職員にプライバシー研修を行い、利用者の人格を尊重し、誇りを損ねないように周知徹底を図っています。利用者に慣れ慣れしい言葉かけや、プライバシーを損なう行動が見られた時はその都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望があれば行う事が困難でも安全であれば出来る限り見守り、必要であれば支援するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様主体の生活を基本に起床時間や就寝時間は、ある程度決まっているがなるべく自由に過ごしていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	左記のとおり行うよう努めている 入居者様に洋服を選べる方には、選んでもらえるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様にもよるが食器拭きや盛り付け・配膳をしていただいている	食事は併設している施設で調理したものを、盛り付け、配膳を利用者と一緒に行っています。利用者と職員と一緒に食事をとる事で、食欲、好み、食事機能がわかり今後の支援に役立っています。話も弾み楽しい食事時間になるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	経過表をその日の職員で共用し支援している カンファレンスでも話し合い気をつけるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝前・毎食後は口腔ケアを行っている 訪問歯科も入っており口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけをしながら左記のとおり行っている チェック表を用いて把握に努めている	一人ひとりの力や排泄のパターンを把握してトイレで行う事を基本に日中は布パンツで過ごすように支援しています。その結果介護用おむつから布パンツになった利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト・オリゴ糖・寒天などで薬に頼らないように工夫している 工夫して無排便が続いてしまった場合は、主治医に相談し浣腸や内服薬を処方してもらっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	左記のとおり行っている 入りたい方を優先し好きでない方には声かけやタイミングなど工夫はしている	入浴は週2回行っています。入浴する時間も個々の希望に合わせて行っています。嫌がる人に対してはタイミングを見たり、ゆず湯、入浴剤を使うなど入浴を楽しめる工夫もしています。体の不自由な人にも機械浴で対応して楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を活性化するよう努めている ナイトケアにて寝巻に着替えオンオフや落ち着けるような環境を作り入居者様個々に合わせ対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員にわかるよう薬のファイルを作成したり薬をいれるケースに個々の名前や個数を記入してあり確認しながら服薬に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	左記のとおり心がけている 一人一人に合わせて役割を行い見出す努力も重ねている 趣味の物を持参してもらい得意とすることをしていただく機会を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望をお聞き出来る限り出たいという気持ちが維持出来るよう努めている 車が確保できる日は、買い物や公園へ行ったりしている	外出したいという気持ちを維持できるように日常的に施設の周りの散歩やおやつを買いに行っています。家族と一緒に家に帰ったり馴染みの場所や食事に出かけたりしています。今後季節ごとに外出支援を行う計画を会議で話し合っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了承を得た上で小銭程度を所持されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の了承を得た上で電話をしたいときは、事務所の電話を使用いつでもできる体制をとっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	左記のとおり行っている カレンダー作りや飾り物を入居者様と一緒に入居者様の意見を聞きながら毎月、作成し季節感を味わっていただけるよう壁に飾っている	一日過ごす事の多いリビングは利用者が作成した季節の装飾が飾られ、皆で囲める大きなテーブルや所々に置かれたソファで利用者同士で談話したり、寛げる場となっています。玄関、トイレ、浴室も職員と利用者が一緒になって掃除を行い、清潔に保たれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	左記のとおり行っている ソファやイスを置きつくる居場所を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	左記のとおり行っている ご自宅から馴染みの物を持ってきていただき居室内に置きADLに合わせて過ごしていただいている	日頃使い慣れた家具や家族の写真を飾り、利用者が居心地良く安心して過ごせる居室になっています。家族の希望を受け入れ利用者が自宅で過ごしていた動線に近い部屋を用意して利用者の戸惑いを軽くする工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには、見やすい場所にマークや名前をつけたり工夫している		